

笠間市 こどもと子育て家庭の生活に関する調査（支援機関等） 集計速報

回収状況

調査対象：市内の子育て支援機関・団体・担当部署
 回答方法：紙の調査票による
 回答数：62 件

備考

※集計結果は、小数点第 2 位を四捨五入して第 1 位で表記しており、100%とならないことがある。
 ※集計表の上段が回答数（件数）、下段が割合（%）である。

支援機関等の皆様について

問 1 現在実施している支援内容を教えてください。

「こどもや保護者の相談支援」が 52.5%、「学習・進学支援」が 36.1%、「こどもの預かり」と「親子活動の実施」がともに 34.4%となっている。

全 体	こどもの預かり	学習・進学支援	こどもや保護者の相談支援	親子活動の実施	子育て情報の提供	こども食堂・フードパントリー	その他	無回答
61	21	22	32	21	14	8	4	0
100.0	34.4	36.1	52.5	34.4	23.0	13.1	6.6	0.0

様々な困難を抱えるこども・家庭の把握状況について

問 2 貴団体の活動に参加したり、利用しているこどもたちは、どのような困難な状況にあることが多いと思いますか。

「学校の授業についていけない」が 45.9%、「その他」が 32.8%、「こどもが身体の成長や季節に応じた服装をしていない」と「相談にのってくれる大人がいない」がともに 19.7%となっている。

全 体	こどもが身体の成長や季節に応じた服装をしていない	食事を十分にとれていない	お風呂に毎日入ることができない	医療機関への受診を控えている	学校の授業についていけない	学校で必要な文房具や学用品等を持っていない	夜遅い時間でもこどもだけで家にいる	日常的に家事やきょうだいの世話を担っている	相談にのってくれる大人がいない	虐待を受けている	その他	特にない	無回答
61	12	9	9	6	28	10	7	5	12	6	20	11	0
100.0	19.7	14.8	14.8	9.8	45.9	16.4	11.5	8.2	19.7	9.8	32.8	18.0	0.0

問3 困難を抱える状況のこどもの家庭は、どのような要因や背景等があると思われますか。

「保護者の生活能力が低い」が44.3%、「保護者のこどもに対する関心が薄い」が34.4%、「保護者の就労状態が不安定」が31.1%となっている。

問3困難を抱えるこどもの家庭の要因や背景等[%・複数回答]												
全体	地域から孤立している・近所とのトラブルが多い	住環境が劣悪・不衛生	保護者の就労状態が不安定	保護者の生活能力が低い	保護者のこどもに対する関心が薄い	保護者や家族に疾病や障がいがある	保護者や家族が虐待やDVを経験している	保護者にこどもへの過度な期待や干渉が見受けられる	保護者がアルコールやギャンブル等に依存している	保護者とこどもの仲が悪い	その他	無回答
61	12	12	19	27	21	14	13	11	6	4	14	6
100.0	19.7	19.7	31.1	44.3	34.4	23.0	21.3	18.0	9.8	6.6	23.0	9.8

問4 支援や活動において、保護者やこどもへの関わり方や、支援・活動機関として、内部的、または対外的な関係について感じていること、気になる状況がありますか。

「保護者との接触や信頼関係の構築が難しい」が39.3%、「支援が必要であるのに訴えがないため、支援に入ることができない」が36.1%、「保護者が支援制度や社会資源を知らない、知ろうとしないため、支援が行き届かない」が21.3%となっている。

問4内部的または対外的な関係について感じていること、気になる状況[%・複数回答]													
全体	保護者との接触や信頼関係の構築が難しい	こどもとの接触や信頼関係の構築が難しい	支援が必要であるのに訴えがないため、支援に入ることができない	支援が必要であるのに、支援を拒まれる	保護者が支援制度や社会資源を知らない、知ろうとしないため、支援が行き届かない	支援者側の人手が不足している	支援者側の知識や経験が不足している	支援機関内で責任者や同僚等と相談や情報共有する機会が不足している	支援に活用できる制度や社会資源が少ない	支援者側での連携が難しい	その他	特になし	無回答
61	24	12	22	12	13	11	12	2	5	8	7	8	3
100.0	39.3	19.7	36.1	19.7	21.3	18.0	19.7	3.3	8.2	13.1	11.5	13.1	4.9

支援を行う中での課題や連携について

問5 支援を行う中で、どのような難しさを感じていますか。

「保護者との関わり」が47.5%、「人材の確保」が39.3%、「個人情報保護や情報共有」が32.8%となっている。

問5支援を行う中での難しさ[%・複数回答]													
全体	財政面	人材の確保	他部署や他機関との連携	個人情報保護や情報共有	保護者との関わり	支援の対象がわからない	支援を拒否される	こどもへの支援策が少ない	若者への支援策が少ない	支援のネットワークがない	その他	特になし	無回答
61	10	24	14	20	29	4	4	3	2	5	7	7	3
100.0	16.4	39.3	23.0	32.8	47.5	6.6	6.6	4.9	3.3	8.2	11.5	11.5	4.9

問6 様々な困難を抱えるこどもを支援する上で他機関と連携していますか。

「必要に応じて連携している」が68.9%、「常に連携している」が18.0%となっている。

問6こどもを支援する上で他機関との連携状況[%]					
全体	常に連携している	必要に応じて連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答
61	11	42	4	3	1
100.0	18.0	68.9	6.6	4.9	1.6

問7 問6で常に連携している、必要に応じて連携していると答えた方に伺います。支援を行う上でよく連携されている機関を教えてください。

「学校・教育委員会」が 62.3%、「市役所関係課」が 60.4%、「保育園・幼稚園・認定こども園」が 28.3%、「スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー」が 24.5%となっている。

問7支援を行う上でよく連携されている機関[%・複数回答]													
全 体	学校・教育委員会	保育園・幼稚園・認定こども園	児童館・放課後児童クラブ	福祉事務所(ケースワーカー)	母子・父子自立支援員	家庭児童相談員	市役所関係課	社会福祉協議会	児童相談所	民生委員・主任児童委員	スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー	その他	無回答
53	33	15	7	4	4	6	32	5	4	5	13	5	0
100.0	62.3	28.3	13.2	7.5	7.5	11.3	60.4	9.4	7.5	9.4	24.5	9.4	0.0

問8 問6で、あまり連携していない、連携していない、と答えた方に伺います。連携していない理由はどのようなことからですか。

「個人情報保護の観点から」がやや多くなっている。

問8連携していない理由[%・複数回答]							
全 体	自分の所属先や自分自身で完結できるから	連携できる機関が近くにないから	個人情報保護の観点から	連携する相手方がわからないから	連携する方法がわからないから(つてがない)	その他	無回答
7	2	2	4	0	1	2	0
100.0	28.6	28.6	57.1	0.0	14.3	28.6	0.0

問9 支援を充実していくために、関係機関がどのように連携していったらよいと考えますか。

「記入あり」が62.3%で、子ども・家庭の情報共有に関する意見が多い。

問9支援を充実していくための関係機関の連携方法[%]		
全体	記入あり	記入なし
61	38	23
100.0	62.3	37.7

順位	内容	件数
1位	子ども・家庭の情報共有に関すること	18件
	○関係機関の担当者が同席して対象児のケース会議を開くなど、情報共有ができるようにしていくとよい。必要な情報の共有をして子ども主体の支援を考える。官民間で支援対象者の共有が必要だと思う。 ○行動特徴の理解のために、学校での様子を知りたいことがある。問題を抱える児童の状態やその日あった大きな出来事を共有できると色々と対応がしやすくなる。 ○個人情報保護の観点から共有できる情報に限りがあったとしても、必要最低限の共有は必要である。	
2位	連携体制に関すること	8件
	○日頃から連絡を取り合い、いつでも話しやすい関係性を作っておくとよいと思う。関係機関の担当者が集まる会議の回数を増やして、担当者同士が頻りに顔を合わせるようにしてはどうか。 ○支援資源の見える化、支援のネットワークづくりをする。支援が必要になった場合には関係機関に報告・相談をし、対応の仕方等を進めていくことで連携できることが重要である。	
3位	事例検討・意見交換の場に関すること	各5件
	○定期的に事例等を通じて連携の成功例等を聞ける機会があると今後の参考になると思う。担当者間の話し合いや事例検討を継続することだと思う。ケース会議等の定期的な意見交換会を行う。定期的に事例について話し合える機会があるとよいと思う。	
	各機関の役割に関すること	
	○連携先の組織や業務についての理解を深めることが重要だと考える。 ○適切な支援ができるように、役割分担を明確にしていくことが大切だと思う。課題の洗出しと優先順位づけを行い、いくつもの課や機関の枠を取り外しての合同会議を持ち、課題とその解決を分担していくという視点があるとよい。 ○保護者が気軽に相談できる機関をしっかりと周知する必要があると思う。	

こどもの貧困対策の推進について

問10 困難を抱える子どもや保護者のためにどのような支援・制度が必要だと考えますか。

「放課後や長期休暇中の居場所支援」が67.2%、「給食の無償化等の経済的支援」が59.0%、「就学援助等の補助・給付による経済的支援」が50.8%となっている。

問10経済的困難な家庭に必要なだと考える支援・制度[%・複数回答]														
全体	学校内での学習支援	学校外での学習支援	高等学校中退の子どもに対する支援	放課後や長期休暇中の居場所支援	子ども食堂等の食事を提供する支援	衣服(制服等)を提供する支援	子どもに対する就労支援	保護者に対する就労支援	保護者の就労に係る資格取得への支援	給食の無償化等の経済的支援	就学援助等の補助・給付による経済的支援	貸付による経済的支援	その他	無回答
61	24	24	12	41	25	21	5	24	10	36	31	4	4	1
100.0	39.3	39.3	19.7	67.2	41.0	34.4	8.2	39.3	16.4	59.0	50.8	6.6	6.6	1.6

問 1 1 経済的な問題等で困難を抱える子どもや家庭に対する支援について、ご意見がありましたら自由にご記入ください。

「記入あり」が 50.8%で、生活支援や経済的支援に関する意見が多い。

自由意見[%]		
全 体	記入あり	記入なし
61	31	30
100.0	50.8	49.2

順位	内容	件数
1位	生活支援に関すること	9件
	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者自身が様々な課題を抱えているケースでは、家庭に代わる温かい居場所の提供も必要なケースがあると思う。毎日型の子ども食堂や居場所づくりの支援が必要である。 ○困窮世帯では、給付金を生活のために使ってしまうため、制服等の衣服は現物給付で子どもたちに届けることも検討できないだろうか。 	
2位	経済的支援に関すること	各6件
	<ul style="list-style-type: none"> ○給食費を払えないことで子どもにひげ目を感じさせることがないよう、給食の無償化はぜひ実現させてほしい。 ○経済的な問題では、周囲に助けを求めづらい状況にあると思うので、周りの人がその家庭の状況に気づき、サポートできるような環境を作ることが大切だと思う。 ○学童保育において、長期休暇中は無償で給食提供ができると経済的な支援にもつながると思う。 ○就学援助を受けている家庭の修学旅行費用は、市から直接旅行会社への支払いにすることを検討できないか。 	
	保護者への支援に関すること	
4位	教育・体験の機会の格差に関すること	各5件
	<ul style="list-style-type: none"> ○学力格差も大きな課題であるため、無料の学習塾等の整備も必要だと感じている。 ○スポーツクラブの加入、文化面の催しへの参加、友だちとの遊び、家族旅行等、経済的理由で体験できないことがある。経済的に困難な家庭は学校以外の学習機会を得ることも困難になり、より一層学習への意欲がそがれる場合もあると思う。 ○学習補償の機会が日常的に提供できるとよい。塾等に行きたくても塾代が高くて行けない子に対して、ボランティアで大学生等に教えてもらえるようなところがあると助かるのではないだろうか。 	
	支援の相談や情報提供に関すること	
	<ul style="list-style-type: none"> ○行政が民間を巻きこみ、支援の体制のあり方を考えていく必要があると思う。 ○困難に陥った際には、どういう関係機関があつて、どういう支援をしてもらえるのかということ、市の広報紙に掲載したり、リーフレットやチラシ等を作成するなどして、幅広く周知する必要がある。様々な支援があることを保護者に知らせ、保護者や子ども達への日常生活の手助けになれるように周知を広めていただきたい ○本当に問題を抱えている家庭の方が、色々な支援を快く受ける事ができるかを考える事が、大切だと感じている。経済的な困難さについては、子どもも保護者も相談するまでには時間がかかったり信頼関係が必要な事柄なため、まずは相談できる窓口を多くつくることではないかと思う。 	